

＋SERIES / 診療科紹介

循環器内科の診療紹介

循環器内科は冠動脈疾患、心筋疾患、肺動脈疾患、弁膜症、不整脈など、すべての循環器疾患を対象とし、教官15名をはじめとした総勢40名のスタッフで臨床業務に当たっております。一般病床49床の他に10床のCCUを有しており、重症症例、緊急症例に対応しています。診療グループは、対象疾患によって「**虚血グループ**」「**循環グループ**」「**不整脈グループ**」の3診療グループ体制となっており、それぞれが専門性を生かしつつ、互いに協力しながら診療を行っています。

「**虚血グループ**」は狭心症・心筋梗塞等の虚血性心疾患を担当し、冠動脈インターベンションを始めとした最新の診療を行っています。急性心筋梗塞には24時間態勢で診療に当たっており、夜間の冠動脈インターベンションにも迅速に対応しております。この10月には高度救命救急センターが開設され、更なる症例の蓄積が期待されています。2005年度の総冠動脈造影検査数は362症例、インターベンションも134症例152病変（手技成功96.7%）にのぼっています。また、冠動脈インターベンションも冠動脈バイパス手術もできない重症虚血性心臓病に対しては、低出力体外衝撃波を用いた非侵襲性血管新生療法を行っております（**図1**）。お困りの症例がありましたら、是非ご紹介下さい。

「**循環グループ**」は、肺高血圧や心筋症、肺血栓塞栓症、弁膜症、先天性心疾患など冠動脈疾患以外の種々の循環器疾患の診断・治療を担当しています。2005年度のカテーテル検査は多様な疾患症例176例に対して施行されました。肺高血圧症（**図2**）は一般病院ではなかなか扱われることの少ない疾患ですが、東北大学が関東以北では唯一の肺移植認定施設になっているところから、当科には東北・北関東各地から重症の肺高血圧症の患者様が多数紹介されてきており、エポプロステロール持続注入療法やエンドセリン受容体遮断薬などの先進的治療、さらには研究段階の先進治療の導入などの取り組みを行っています。診断に苦慮する心疾患患者、重症の肺高血圧患者などのご紹介をお願いいたします。

「**不整脈グループ**」は、東北各地から紹介されてくる心房細動や心室頻拍などの難しい症例のアブレーション治療に当たっている他、重症心不全に対する両心室ペーシング（CRT）、植え込み型除細動器（ICD）による治療等も行っています。2005年の実績はアブレーション137例、CRT11例、ICD27例などとなっています。殊にカルトシステムを駆使した心房細動に対するアブレーション（**図3**）に関しては日本を代表する施設になっております。頑固な不整脈や危険な不整脈に悩まされる症例、薬剤に反応しない重症心不全の症例などご紹介いただければ幸いです。

昨年10月2日に高度救命救急センターがオープンしました。循環器関連救急疾患としては急性冠症候群、重症不整脈、急性肺血栓塞栓症、急性大動脈解離、心原性ショックなどがありますが、当科では救命センターにスタッフを派遣しつつ、さらにカテーテルインターベンションチームが24時間態勢で待機するなど、救急体制の確立に積極的に関与しております。急性の胸痛や息切れ等を主訴とした重症患者のご紹介、よろしく願います。当院ではヘリポートも備えており、遠方からの

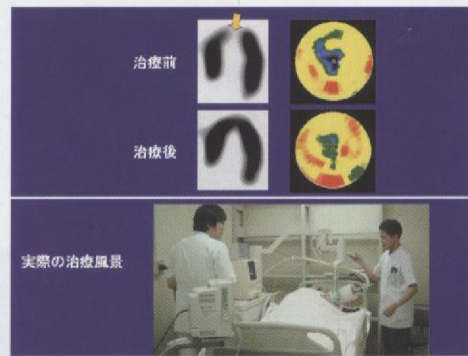


図1. 低出力体外衝撃波による重症虚血性心臓病の治療

上段に治療前後の心筋シンチグラムを、下段に実際の治療風景を示す。シンチグラムで血流が低下している部位（左上矢印の部位および右上図青で示された部位）は治療後に正常化している。

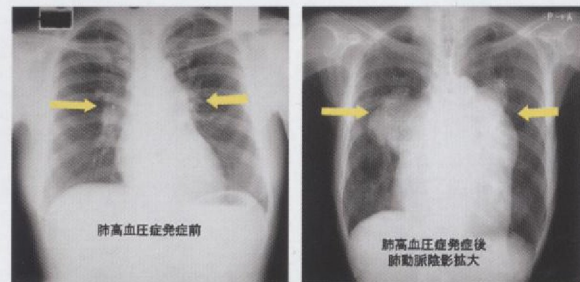


図2. 肺高血圧患者の胸部レントゲン写真

発症前（左）と発症後（右）。肺動脈陰影の著明な拡大が明らかである。

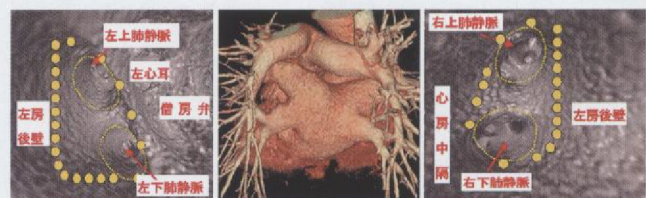


図3. カテーテルアブレーションによる心房細動の治療

左心房を背部からみたCT再構成画像（中）とアブレーション時の焼灼部位。左右の写真は左心房内左肺静脈開口部位（図左）と右肺静脈部位開口部位（図右）の再構成画像。黄色の点は焼灼部位。

重症患者・救急患者も受け入れ可能です。

また、当科では心不全を対象とした疫学調査や薬物介入を行った大規模臨床試験を立ち上げております。さらに種々の臨床試験を計画しています。世界的にも誇れる規模と質の臨床研究をめざしてスタッフ一同がんばっております。今後先生方にも症例のご提供をお願いすることもあろうかと思っております。その節はご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

当科新患は月曜日から金曜日までの毎日受け付けており、受付時間は朝8時30分から10時30分までですが急患はこの限りではありません。地域医療連携センターを通して新患のご予約をいただくと待ち時間が少なくすみませぬのでご活用ください。また、当科広報誌「HEART」を発刊しました。詳しくは大学病院の当科ホームページをご覧ください。